
ちょうちょむすび

栞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちようちよむすび

【Nコード】

N4576BA

【作者名】

栞

【あらすじ】

1Kの部屋で、君と二人で過ごす。

この暖かさはなんだろう。

苦しみの沼でもがいて答えを見つけ出す。

小学六年生のころ。

俺が初恋を覚えたころ。

父親が女を作って母さんと離婚した。

母さんは泣いていた。

中学一年生のころ。

新しい生活に不安と期待を抱いていたころ。

母さんが新しい男と結婚した。

それは四十代の女には見合わない、とても若い男だった。

母さんは笑っていた。

俺を捨てた父親を恨んだことはない。

ただ、女の汚さを知った。

父さんを一唆 そそのか し母さんから奪った女。

男に裏切られたことを教訓にできない愚かな女。

俺の前では、母もまた立派な女であった。

中学三年生のころ。

俺が愛という感情を捨て去っていたころ。
二人目の父は俺を犯した。

一つ理解できなかったことは、父が俺のそれを自らに挿入したこと
だった。
手をネクタイで縛られ、身動き出来ないままだった俺は、
ただその様子を快感と疑問を抱きながら見ていた。

俺は、初めて性を知った。

それから、あの人は俺を犯すようになった。
彼はいつも行為が終わるとキスをした。
それが父性ではない愛故のものだと知っていたが、俺は彼に何の感
情も抱いていなかった。

高校二年生の今。

俺が幸せについて考え始めた、今。
母さんが二度目の離婚をした。

俺は理由さえ、聞く気にならなかった。

母さんが荒れていたので、家から出ようと思った。

一週間でいい、と先輩に頼み込み、部屋へあがった。

先輩に渡されたココアを飲み干して、俺は重たい瞼を閉じた。

先輩に出て行けと言われた。
平謝りする彼の顔は笑っていた。

彼女が泊まりに来るらしい。

優しさなど端から信じていなかったの、礼を言って家を出た。
このままだと言るところがない。
先輩に出ていくよう言われたことで、
なんとなくもう知り合いには頼めないような気持ちになっていた。
いや、拒まれることが怖くて、頼めなかった。

メル友募集の掲示板に、五日ほど泊めてほしいと書き込んだ。
なんでもする、と付け加えた。
上手く言って逃げようと思っていたわけではない。
男に犯されるのは慣れていた。

十分後、一通のメールが届いた。

住所と、ここに来れますか？ という一文だけが載っていた。
随分と不用心なやつだ。
俺を犯すことしか考えていないのだろう。

一通目のメールに住所を書くなど、普通の人間ならしない。

だが、ここしか行くところがなかった。

俺は終電も近い電車に乗り込んだ。

家に帰ればいいと思うだろう。

でも、なぜか心がそれを拒むのだ。

理由は分からない。

気づけば男のメールに書いてあったアパートの前だった。
きれいとは言えないが汚くもない。

深呼吸をする。

鼓動の音と共に、階段を上った。

201、201……。

見つけた。

インターホンを押す手が震えた。

ドアが開く。

ギシギシと、金具の軋む音がした。

「どなたですか？」

金髪のさらさらとした髪。

二重の目。

綺麗、というより可愛いような顔立ち。

165センチほどの身長。

俺より小さいだろう。

おそらく、20代だろうか。

太った中年の男が出てくるのだろうと思っていた俺は、
同年代のような男が目の前に立っていることに驚きを隠せなかった。

何も話そうとしない俺を見て、男は気づいたのだろう。

ああ、と一ツ呟いた。

その言葉を聞いたときに、なんとなくこの男も他の奴らとなんら変わ
りないことに気付いた。

歳など関係ないのだ。
俺を犯す、それが目的。

また、心を決めた。
自分が腐っていくような気がした。
なぜが目の奥が熱く、痛くなった。

俺はその部屋に足を踏み入れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4576ba/>

ちょうちょむすび

2012年1月13日10時45分発行